

## デジタル界の成功者の人物像を探る

### 『33人のサイバーエリート』

そこに山があるとす。先駆者となる冒険家はその山に挑み、登頂を試みる。続く登山家は、山へ登るためのルートを整備する。登山道を作り、山小屋を作り、登山が安全にできる環境を整える。登山を目指す者が増えたとき、登山客を当て込んで、麓には宿屋や土産物屋が現れはじめ、観光協会などのコミュニティーを作り上げる。

インターネットでも同様だ。まず、インターネットというインフラを作り上げた先駆者たちがいる。軍事ネットや学術ネットを構築し、相互接続するための技術を生み出して磨き上げていった人々だ。次に、誰もが利用しやすいように環

境を整える人たちが続く。優れた電子メールソフトやWWWブラウザを開発し、インターネットを普及させる起爆材を生み出した人々である。そして、急増するインターネット人口を対象にビジネスを展開する人々がやってくる。

本書で紹介される33人のサイバーエリートのほとんどが、第三の人々になる。ある意味でのエリートや成功者、キーマンばかりだ(原題になる「DIGERTI(デジラティ)」はデジタル界という意味になるらしい)。有名なコンピュータ専門誌とインターネット専門誌の編集長、ライター、ハードやソフトメーカーの社長らの紹介とほかのメンバーからの人物評が33人分も掲載されている。ジョン・マー

コフやクリフ・ストールといった興味ある人物もいるが、本の後書きを33連発も読んでいて疲れる。取り上げる人物が多すぎて、内容が希薄だという致命的な欠点を含むが、かなりくせのあるエリートたちを集めているので、興味のある人は読んでみるといいだろう。



ジョン・ブロックマン 著 / 椋田直子 訳  
株式会社アスキー 発行  
542ページ  
本体 2800円 + 税  
ISBN4-7561-1792-9



# インターネットの源流を探る

菊地宏明 Hiroaki Kikuchi

## アニメーション作成ソフトの入門書

### 『Flashのつぼ』

軽快なアニメーションを再生してくれる人気のソフトウェア「Flash」のデータ作成虎の巻。待たされるのは嫌だから重たいアニメーションは見たくない。そんな性格でも許せるコンパクトなデータサイズで軽快にアニメーションを再生するのがマクロメディアのFlashだ。このデータを作成するノウハウを伝授しているのだが、さすがにFlashデータの作成法だけあって、凝ったアニメーションよりコンパクトなサイズのデータに収めることに力が入っている。

Flashでアニメーションを作る基本的な操作、下絵から絵を描いていくテクニック、連携して使うFreeHandでのブレンドツールのテクニック、シンボルを使ったテクニック、ビットマップテクニック、サウンドやMIDIテクニックと進む。



浜田保彦、YOU 著  
ソフトバンク株式会社 発行  
247ページ  
本体 2800円 + 税  
ISBN4-7973-0465-0

後半は応用編で、JavaScriptとの組み合わせや凝ったアニメーション、ゲーム、プレゼンテーション、データのコンパクト化などのテクニックが収められている。

もちろん、FlashもFreeHandも市販製品だが、付属CD-ROMには体験版が収録されている。ウィンドウズとマッキントッシュで使えるハイブリッド版にサンプルも収録され、試用なら本書だけあればすぐに始められる。イラストとアニメーション画像はYOUさんの担当で、かわいい絵がじっくりと堪能できる。わかりやすい解説、読み進めやすい構成と、ちゃんと初心者向けの「つぼ」を押さえている。

## インターネットを理解するのに最適な入門書

### 『インターネット自由自在』

岩波新書のインターネット入門書。実践的というよりも、インターネットとはどのようなものなのか、その概要を理解するのに適している。

第3章のインターネットプロトコルでインターネットの仕組みについて若干触れているものの、多くのページでは、ユーザーとして、インターネットを利用すると何ができるのかについて解説されている。ユーザーの視点で見えるところに解説の重点をおき、普段ブラックボックス化されているところは概要にとどめているので理解しやすいだろう。

電子メール、IP、ドメイン、プロバイダー、ダイヤルアップ、ウィンドウズ、WWWブラウザ、プラグイン、プッシュテクノロジー、HTMLとホームページ、Java、イントラネット、ファイアーウォール、SOHO、セキュリティ、ポルノ問題、電子マネー、インターネットの将来と、押さえるべき項目は網羅している。

ネットワークやルーターの説明では、理解しやすいようにバスターポートのネットワークを用いているが、後半になるとハブを使ったスタートポートの10BASE-Tにかわっている。だが、その間をつなぐ解説が抜けているので、混乱を招くかもしれない。

ポケットサイズで十分にまとまっている本書は、インターネット入門者の1冊目にちょうどよい。ネットジェネレーションには刺激不足気味で飽きられそうだが、団塊の世代向けの市民セミナーを開くにはちょうどよいテキストになる。



石田晴久 著  
株式会社岩波書店 発行  
256ページ  
本体 660円 + 税  
ISBN4-00-430551-9

# 世界を変えたトランジスターの誕生秘話

## 『電子の巨人たち』上・下

コンピュータのハードウェアを作り上げるために必要な基本的デバイス、というより現代社会を支える基礎技術、それは集積回路であり、トランジスター素子である。トランジスターの誕生から加速しはじめた高度な電子工学の上に、現代社会が築かれている。いっても過言ではないだろう。今から51年前、トランジスターという名前さえまだ付けられてない素子は、ベル・テレフォン研究所で生み出された。パーディーン、プラタン、ショックリーの3人の研究員に作られた素子は、3つの端子を持ち、入力する電流が出力する電流量を制御する機能を持っていた。「抵抗の変換 (trans-resistance)」の意味を含めた名称を持つトランジスターの誕生だ。本書には、彼らの生い立ち、当時の状況、トランジスターの製造メーカーであるテキサ

ス・インスツルメンツ社やフェアチャイルド社のそのころが記されている。生み出されるまでの苦労だけでなく、量産する難しさが至るところに描かれている。

後半は、さらに集積回路の基礎技術となる電界効果トランジスターの誕生、集積回路への試みまでが描かれる。2冊に描かれたトランジスター誕生秘話は、現代社会の1つのマイルストーンである電子工学技術の原点を取り上げていて興味深い。

本書には日本の会社が1社だけ登場する。トランジスターの素子が生まれて、まだ何に適用したらいいのかわからないころのことであり、米国ではいくつかの会社がトランジスターを組み込んだ補聴器を販売していた程度だ。その会社は、日電や富士通といった大手コンピュータメーカーではなかった。トランジスター開発だけでなく、トランジスターにまつわるベンチャー企業の黎明期を知る本としても楽しめる。



マイケル・リオードン、リリアン・ホーデンス 著 / 鶴岡雄二、ディーン・マツシゲ 訳  
ソフトバンク株式会社 発行  
295ページ / 311ページ 本体 1800円 + 税  
ISBN4-7973-0533-9 / ISBN4-7973-0534-7

## ネットワーク世代の世界観とは

### 『デジタルチルドレン』

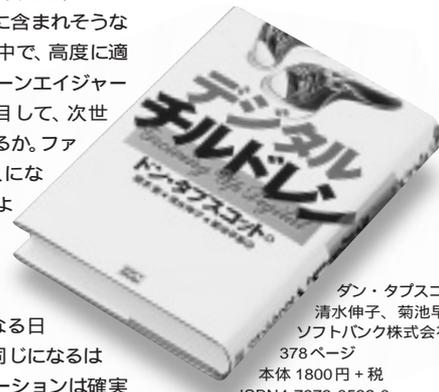
「ねえ、WITH LOVE見た？ 間違いメールで始まるラブストーリーのあれ。竹野内が使うメールソフトさ、あれEudoraでしょ。だったらさ、シグネチャーにリアルネーム入れるよね。だって、仕事のメールじゃん。だからさ、あんな話になんないよね、実際の話」。テレビドラマを見て、インターネットの電子メールにロマンスを抱く世代もあれば、こんな会話をする世代もある。インターネットが日常に溶け込んで生活する彼らをデジタルチルドレンと呼ぶ。原題は「Growing Up Digital」で、デジタルとともに成長する世

代をいう。別の呼び方では、ネットジェネレーション。パソコン通信やインターネットなどのネットワークを生まれながらにして使いこなせる世代ということになる。本書では、米国の人口統計学上の第二次ベビーブーマー（1977～97年生まれ）がネットジェネレーションだという。20代前半からティーンエイジャーとそれ以下の子供たちがその範疇に入る。彼らが、ネットとどのように付き合っているのか、何を考えているか、彼らの時代はどう変わるかを、ネットジェネレーション300人とのコミュニケーションを通して探っていく。

年代で区切るのとは時代を理解

するための1つの手法だが、インターネットの爆発的普及の衝撃波は老若男女を問わずに、影響を与えている。30、40代でも、ネットジェネレーションに含まれそうな人だっている。その中で、高度に適応した世代がティーンエイジャーだ。その世代に着目して、次世代を占うとどうなるか。ファミコン世代が大人になったらという仮定よりも、現実的でも、もしもし。

いくつかの点で米国の状況と異なる日本でも、数年後に同じになるはず。ネットジェネレーションは確実にあなたの背後に迫ってきている。



ダン・タプスコット 著 / 橋本 恵、清水伸子、菊池早苗 訳  
ソフトバンク株式会社 発行  
378ページ  
本体 1800円 + 税  
ISBN4-7973-0532-0

## 世界のソニーの戦略を学ぶ

### 『ソニー自叙伝』 (CD-ROM 付き愛蔵版)

ソニーの広報が自ら著した自叙伝である。広報資料に見えなくてもいいが、読み物としても十分にももしろい。先に言っておくが、私はソニー製品の愛用者であるが、ソニーの関係者ではない。

なにがおもしろいのか。まず先進的な製品を開発していくところだ。ソニーは市場に出回っている製品や売れている製品を作るのではなく、まったく新しいコンセプトの製品を作り上げていこうとする。

新しい技術で市場にない製品を、または国産化されていない製品を生み出そうとする経営姿勢はソクゾクするほど魅力的だ。生まれたばかりのトランジスターの特許を買い、トランジスターラジオやトランジスターテレビなどを生み出していた。前述の『電子の巨人たち』に登場した唯一の日本企業こそソニーなのである。本書でも、トランジスターの特許契約のエピソードが書かれているが、その中でも、WE社に補聴器を作れと言われたとあ

る。当時、補聴器だけが売れていたという状況が『電子の巨人たち』を併読することでわかる。

そして、試行錯誤をしながら生産していく実行力。あらかじめ基礎研究で生産の目処が立ったものだけが作られていったわけではない。磁気テープの磁性体となる酸化第二鉄を作るために原料をフライパンで炒ったなど、今のソニーからは想像もつかない。トランジスターにしても、自社製造するための製造機器を作るところから始まっている。

作られた商品が社会に与えた影響もただならぬ。ウォークマンはライフスタイルを変えてしまった。「WALKMAN」という商品名が英語辞書にも掲載されるほどに一般化しているのは知っていたが、当たり前のように使っている「pocketable」という語が小型ラジオTR-63のキャッチフレーズに使われた和製英語だったとは驚きだ。

電気ざぶとんからプレイステーションまでの開発のエピソード、銭形平次や尾張徳川家とソニーの関係など、この本には不思議なソニーがいっぱい詰まっている。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)